

季
報

天才アート

法人事務所

〒612-0835 京都市伏見区桃山紅雪町162番地

〒605-0811

四条・新道アトリエ

京都市東山区小松町130番地 元新道小学校内

<http://tensai-art.com>

特定非営利活動法人 障害者芸術推進研究機構

天才
アート
ミュージアム
The Tensai Art Museum Kyoto

「天才アート」とは、しょうがい 障害のある人の
優れた感性と表現力、そこから湧き
出る独創的な作品に対してネーミング
したものです。

京都のアール・ブリュット

- ◎年頭のご挨拶・・・・・・・・・・・・・2面
- ◎天才アートミュージアム展概要・・・・・2, 3面
- ◎ギャラリー／展覧作品紹介
- 天才アートミュージアム 所属作家 4, 5面
- 協賛出品作品／青空美術館・・・・・・・・・・・・・6面
- ◎活動報告／作品活用・デザイン化事業・・・・・7面
- ◎アトリエ点描／ボランティア便り・・・・・・・・・・・・・8面
- ◎季報掲載広告・ボランティアの募集・・・・・・・・・・・・・8面



切り絵アートワーク…小山 怜志

年頭の「挨拶」

―天才アートをさらに飛躍の年に―

天才アートの四条新道アトリエも、無事新しい年平成二十六年を迎えることができました。これもひとえに多くのご寄付やボランティア、また陰に日向にご支援を頂いている方々の存在があるからと感謝感謝の想いいっぱい迎春です。発足以来3年目を迎えるうとするばかりですが、昨年は、京都市内4か所の上下水道や私鉄変電所工事現場の壁面の「青空美術館」をはじめ、数々の他団体とのコラボレーション、十一月の展覧会とシンポジウムなど充実した活動を行うことができました。アトリエでは、登録作家の仲間も増え、年間を通して新作の素晴らしい作品が続々と誕生しています。まさに天才作家ならではの鑑賞者をうならせる作品内容です。さらに、これらの作品群を工夫してデザイン化、商品化展開を実現、多くの皆様に手に取って頂いています。何もなかった新道アトリエ事務所も通信機器等が整いつつありますが、日頃常に感心するのは、作家達の保護者の方々の手伝いです。ボランティア、役員スタッフは言うに及ばず、この季報の宛名・袋入れはほとんどがお母さん達の手によるものです。

「継続は力なり。」全ての人々に感謝しながら、今年も天才アートと作家達の更なる飛躍を願うばかりです。

理事長 松谷昌順

第2回 天才アートミュージアム展を 終えて

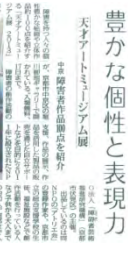
終えて

第2回天才アートミュージアム展を昨年十一月、第1回展と同じく京都市・京都市教育委員会との共催で、中京区にある堀川御池ギャラリーにて開催しました。今展では、前回の後援・協賛団体とともに、中京区にある「アトリエとも」、左京区の京都市立白河総合支援学校、城陽市の「障害者支援施設DO」に新たに協賛団体として加わっていただき、各所属作家合わせて七四名、総点数一一〇点十四群の優れた作品を展示し、盛況にて十七日間の会期を終えました。共催並びに後援と協賛をいただきました関係者の皆様、また会期中お手伝いをいただいたボランティアの皆様、堀川御池ギャラリーの職員の皆様に、紙面を借りて改めて感謝申し上げます。

豊かな個性と表現力

展覧会の各紙報道記事

(左上)朝日新聞・(右上)京都新聞
(左下)読売新聞・(右下)毎日新聞



堀川御池ギャラリー外観



シンポジウムの後、門川大作京都市長（右）を案内する松谷理事長（中央）

開催結果

- ◆ 総入場者数 1, 197人
- ◆ 出品作家・作品数 総計74名

絵画98点+4群/陶芸12点。

- ①天才アートミュージアム24名・絵画35点+切紙2群
- ②アトリエやつほう3名・絵画7点+小品21点（1群展示）
- ③アトリエとも6名・絵画8点
- ④洛西ふれあいの里授産園3名/絵画5点+陶芸12点（一体展示）
- ⑤障害者支援施設DO4名・絵画5点
- ⑥京都市立呉竹総合支援学校5名・絵画5点
- ⑦京都市立白河総合支援学校4名・絵画5点+立体1組
- ⑧東山青少年活動センター28名・28点。

天才アートミュージアム展 2013 開催概要

- 会期；2013年11月2日(土)～11月17日(日) 午前11時～午後6時
- 主催；NPO 法人障害者芸術推進研究機構
- 共催；京都市・京都市教育委員会
- 後援；京都新聞社会福祉事業団・京都市立総合支援学校長会・京都市立同PTA連絡協議会
- 協賛；天才アートミュージアム・京都市ふしみ学園アトリエやつほう障害者支援施設DO・アトリエとも・洛西ふれあいの里授産園京都市東山青少年活動センター・京都市立呉竹総合支援学校京都市立東総合支援学校・京都市立白河総合支援学校
- 会場；堀川御池ギャラリー 京都市中京区油小路通御池押油小路町

【シンポジウム概要】

◆ 基調講演

「アール・ブリュット/障害者アートの現在と展望」(第1回テーマの続編として)

講師/甲南大学文学部准教授 服部 正氏

◆ ディスカッション

①「天才アーティストの表現に迫る」

②「障害のある人の芸術活動の推進のあり方」

パネリスト/服部 正・松谷昌順・重光 豊・マツダジュンイチ

(概要は次頁に)

第一部 ◇基調講演

昨年に引き続き、アウトサイダー・アート、障碍者アート、西洋美術史研究が専門の、甲南大学准教授服部正氏に基調講演をお願いしました。服部氏は兵庫県立美術館学芸員、横尾忠則現代美術館学芸員を経て現職。これまでに『アウトサイダー・アート』現代美術が忘れた「芸術」(光文社新書 平成十五年)のほか、論文や論説を発表され、各地の展覧会や関連催しにて多数講演されるなど、この分野の代表的な研究者です。

今回の講演の中では、「アール・ブリュット」という言葉についての解説から、提唱者ジャン・デュビュッフェの紹介、二〇一三年に開催された第五回ヴェネチア・ビエンナーレの様子や出展作品の紹介、そこで脚光を浴びた日本の作家澤田真一さんの作品や、展覧会のディレクター、マッシミリアーノ・ジョーニについての紹介、展覧会のテーマ『百科全書の宮殿』の契機となったという、ペンシルバニアの自動車工マリノ・アウリーチが創ったユートピア的夢想の模型、世界中全ての知識を納めるための想像上の博物館『百科全書の宮殿』の解説など、たくさんの作品画像を映写しながら、世界各地の事例や展覧会についてお話いただきました。

後半は、日本における『アール・ブリュット』の受容と題して、昭和四三年に「芸術新潮」に掲載された東野芳明の言葉から、その後の流れや開催されてきた展覧会の説明、アール・ブリュット概念や言葉の元々の意味、「芸術論としてのアール・ブリュット」について、そして見る側に問われているアートを

見る目や社会に対する姿勢についての提言がありました。また有名な山下清の仕事についてあらためて解説され、二〇〇八年のスィス・ローザンヌで行われたアール・ブリュット・コレクション「JAPONAIS」展以後の日本の作家や作品に対する海外の眼、日本の作家と作品の紹介のあと、障碍者の創作活動について「アール・ブリュットを特別な才能を持ったわずかな人に起こる奇跡であるというエクスクルーシブ(排他的、閉鎖的)を否定せずその人の可能性を大切にすること、他方で「インクルーシブ(包括的)な視点を忘れてはいけない」こと、このことが「本場」である欧米でも変わらぬ捉え方であると締めくくられました。



基調講演の服部正氏

第二部 ◇ディスカッション

①【障碍のある人の表現に迫る】(要旨)

○特別支援学校に勤めていたとき、芸術系大学の専門家や画家の方々に入ってもらい、環境づくりをし自由に描けるようになったところ、良い作品が生まれるようになった。

○その特別支援学校に向き手伝わせてもらった。これまでのやり方とは違って、時間

内で仕上げることを求めず、描き方の指導をしない、作品に手を加えない、多様な画材を用意するなどした。その授業で、大きな板に十カ月かけてひたすら赤いペンで円を描き重ねるといふ生徒がいたが、実に深みのある作品になり驚かされた。また、デッサン力に優れた人も多く、対象物のとらえ方について、こういう見方があるのかと感心させられた。

②【芸術活動の推進の在り方】
○(昨年)文化庁と厚労省が合同で「障害者の芸術活動への支援を推進するための懇談会」(詳細は両省・庁HP参照)を設置し、その「中間とりまとめ」を踏まえ芸術活動推進の施策が二六年度予算に盛り込まれる予定。

○別の生徒の例では、小学生時より優れたデッサン力を見せていたが、年齢とともに次第にデフォルメさせることを好むようになり、今はそれが全面開花したような作品を生み出す。その所も才能といえるだろう。

○各地の事情や現場単位の取組・課題などを踏まえ、効果的は方策や枠組を目指している。同時に、我々も行政の支援頼みということではなく、自らの力で取組を進めることが大切で、そう取組に行政が重点的に予算を打つことでさらに成果が高まると思う。(終了)

○興味深い話である。特別支援学校の作品展を何度も見たが、「面白い作品にほとんど出会わない。ところが、福祉現場の作品展だと突然のように面白い作品があふれ出す。今の話で自由に描ける環境の設定が大切だと思う。

―閉会に当たり、門川市長が来られていましてのでご挨拶をお願いします。

学校現場もそうした取組を許容できるようになればと思う。それと、今後、取組を進める場合、例えば世界に通用する「メジャープレーヤー」を目指すのか、草野球のプレーヤーを目指すのかという選択も必要だと思う。

「六月に(天才アート所属作家の)高田美貴さんの個展で、作品に触れて感動しました。あらゆる可能性を伸ばすことが大切です。こうした活動を通じて、障害のある人の能力が最大限に開花すると思う。そのため多くの関係者の努力と連携が必要です。

○(表現のベースとなる対象物の情報処理という視点について、例えば自閉症の人では、数字とか特定の形などの情報に集中し、好んで表現するようなことがある。例えば見通しのはっきりしたもの、テレビのドラマよりその中のCM、広告の文章よりロゴに興味を持ち、それを形にすることを好むなど。

○そうした観点からいうと、自分の表現スタイルが確立されていて、互いに模倣しない、影響しあわないということがいえるだろう。



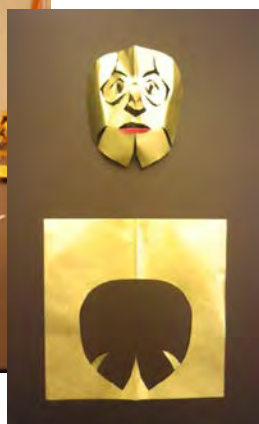
シンポジウム会場(ギャラリーB)

天才アートミュージアム展 2013
作品介绍

作品点数一一〇点、絵画等平面九八点・四群、陶芸十二点、切紙二群（約二千点）
天才アートミュージアム所属作家、ふしみ学園アトリエやつほう、洛西ふれあいの里授産園、京都市東山青少年活動センター、アトリエとも、障害者支援施設DOより、計七四名の作家の作品を展示。



（上）『切紙アート』の群展示／（右）人面の切抜き
小山 怜志 Reiji Koyama



上「山本山」
下「スバルのエムブレム」



『ロゴデザイン』（11点）
富田晃生 Akio Tomita
紙箱などの廃材紙／セロテープ
大；100×815 ～小；70×210



上「MICHAEL JACKSON」
下「LeVIS」



『ゆうじのリズムⅡ』
黒川祐治
Yuhji Kurokawa
紙／ペン・水彩
297×210



『バス50態』
三橋右季 Yuhki Mitsuhashi
画用紙／ボールペン・色鉛筆 360×255



『無題』
辻村 健
Takeshi
Tsujiimura
画用紙／水彩
380×540

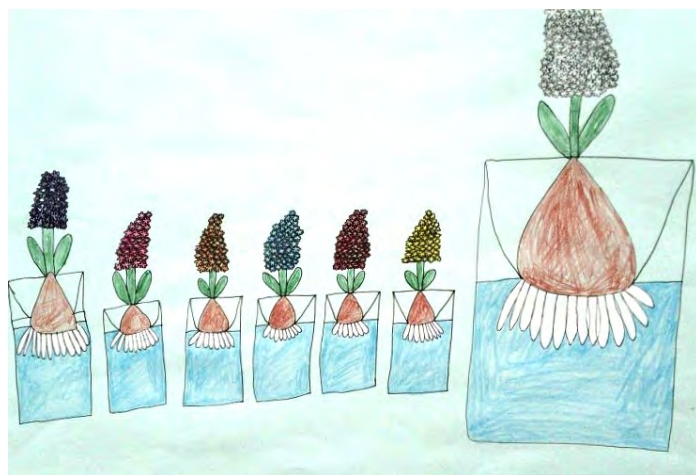


『鯛』～長村駿の「魚図鑑シリーズ」
長村 駿 Suguru Osamura
ケント紙／鉛筆・水彩 380×270

『松谷理事長』

庄野隆太
Ryuhta
Syono

画用紙／色鉛筆
380×540



『ペットボトルのヒヤシンス』

服部可菜恵 Kanae Hattori

画用紙／ペン・色鉛筆 380×540



『マグロ！』

西田翔志貴 Toshiki Nishida

画用紙／ペン 380×540



『クリスマスパーティー』～「上田彩の12季シリーズ」より

上田 彩 Aya Ueda

画用紙／色鉛筆・ペン・色紙 200×290



『オウム』

藤原佳弘 Yoshihiro Fujiwara

アクリル板／色セロファン 435×310

京都の街中にアートを 《青空美術館》続々と開館

当機構と行政や企業などとの連携によりスタートしました《青空美術館》。昨年七月に、第1号を伏見区にある地下鉄くいな橋駅東側の京都市上下水道局の工事現場の囲い堀に開設したところ、新聞・テレビなどのメディアでも報道され大きな評判を呼びました（季報「秋号」十月発行に詳細掲載）。そこで、当機構では引き続き、第2号、第3号、第4号を第5号を相次いで開館しました。



建設工事現場という、ややもすると無機質になりがちな一面を、天才アートミュージアムの作家達の作品によって、思いがけず感動を呼び覚ます空間に変化し、名前通りの青空に映える現代アートな作風は、見る人の心にこれまでない新鮮な感覚を吹き込みます。ぜひお近くの青空美術館へお寄りください。

【第2号】「京阪深草駅東側スペース」

◇ 展示場所 京阪深草駅構内変電所工事
東側フェンス（疎水右岸遊歩道沿い）

◇ 展示作品 絵画作品画像パネル9点

◇ 期間 平成二五年十月一八日～

十二月二六日（展示終了）

◇ 協力 吉村建設工業株式会社



（上）第2号現地写真

【第3号】「元六条院小学校南西角」

◇ 展示場所 塩小路幹線公共下水道
工事建設基地囲い堀

（下京区上数珠屋町通高倉上る若松町）

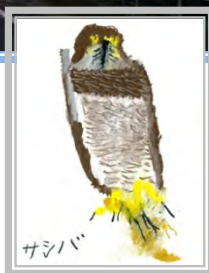
「京都駅」から徒歩十分

◇ 展示作品 絵画作品画像パネル5点

◇ 期間 平成二五年十一月一四日～

同二八年三月頃まで（予定）

◇ 協力 京都市上下水道局



『サシバ』
高島晃平
Kouhei
Takabatake
画用紙/コンテ
540×380

（下）第4号現地写真

【第4号】「山科中央公園北西スペース」

◇ 展示場所 山科三条雨水幹線公共下水道
工事建設基地囲い堀（山科区西野阿芸沢町）

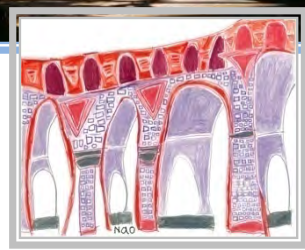
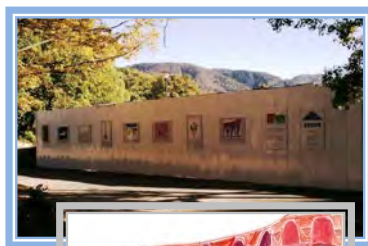
（地下鉄東西線「東野」から北西500m）

◇ 展示作品 絵画作品画像パネル8点

◇ 展示 平成二五年十一月十四日～

同二八年三月頃まで（予定）

◇ 協力 京都市上下水道局



『南禅寺水路閣』
岸本直也 Naoya Kishimoto
紙/色鉛筆 210×270

【第5号】「立命館大学小松原駐輪場北面」

◇ 展示場所 立命館大学小松原駐輪場設置
工事囲い堀（北区平野八丁柳町3）

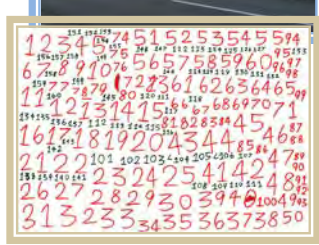
（市バス「平野神社前」西へすぐ）

◇ 展示作品 絵画作品画像パネル5点

◇ 期間 平成二六年一月一四日～二月十日

◇ 協力 吉村建設工業株式会社・立命館

（下）第5号現地写真 ※本号印刷時でパネル未設置



『数字のリズム 1~160』
三津田一輝 Kazuki Mitsuda
画用紙/ペン 380×540

助成金を受けました

当機構では本年度、「天才アートミュージアム展2013」などの作品展示事業の展開や、作品のデザイン化活用を試みなどのために、助成金の申請をしましたところ、左記の三つの助成金や交付金を受けることができました。これにより本季報4号に掲載しました展覧会事業などの取組について、着実に成果を上げることができました。この場を借りて、関係者に深く感謝いたします。

○京都府地域力再生プロジェクト支援事業
平成二五年度交付金

○一般財団法人 教職員生涯福祉財団
平成二五年度 地域社会活動等
支援奨励事業

○公益財団法人 京遊連社会福祉基金
平成二五年度 社会福祉事業助成



助成金の贈呈式（京遊連助成金）

作品のデザイン化事業 始動

天オアートミュージアムのアーティスト作品をデザイン活用した製品を試作し、今回の展覧会で展示いたしました。

デザイン化事業の第1弾として、作品を全面にプリントしたクリアファイルとポストカード。木綿の生地にも図柄を配置した和手拭い。リュックやショルダー、トート型の帆布バッグには、ワンポイントで作品をデザインいたしました。



作品をロゴデザインした帆布製バッグと和手拭い（御池ギャラリーでの展示）

どれも大変好評で、展覧会中にご寄付いただいた方に、モニターという形で製品をお渡しさせていただきました。モニターアンケートのご協力をいただいた皆様、ありがとうございます。アンケートにはデザインを使ったアイディアもいただき、いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。

また、デザイン化製品は、今後インターネットでの販売を予定しております。

オンラインショップは、二〇一四年二月オープン予定です。ホームページやフェイスブ

ックページで随時お知らせいたしますので、こちらも是非ご覧ください。

WEB・商品画像処理 高橋知里



今年の展覧会ポスターのメインビジュアルの作品など、インパクトのあるデザインのA4サイズのクリアファイルです。全8種類です。（頒価 300 円）



昨年から種類も増えたポストカードは全 12 種類です。今後も順次増やしていきます。（頒価 100 円）

暮しにアート 「平成小袖」の試み

昨年の師走も半ばの十二月十四日、京都生涯教育研究所主催による、フォーラム「知恩院と京都華頂大学に学ぶ『平和となごみ・衣服の変化と文化創造』（文化庁支援「知となごみのまち京都・東山における文化遺産活用事業」）が開催されました。

フォーラムの前半は、古代の十二単衣から近世の小袖に至る着物の特徴や変遷について、着付けの実演や華頂大学の先生による講演を交え、小袖が庶民の着物として定着しつつ華麗になっていく過程を分かりやすく学びました。後半は、ユネスコ世界文化遺産に指定された「富士山」を題材に「平成小袖」5点の新作発表会が行われました。



写真上 講演の様子

写真下 平成小袖 勢揃い

このうちの1点に、天オアートミュージアムの作家、岸本直也さんの作品が採用されました。この作品は二〇一二年、岸本さんが東総合支援学校高等部二年の時のもので、天オアートミュージアム2013展のチラシの絵を

見たフォーラム主催関係者の方より依頼があり、友禅染伝統工芸士の足立茂氏が原画をもとに描いたものです。



作品の小袖（足立 茂氏制作）
モデルは京都フランス学院生徒



原画『Nao の富士山』
岸本直也 Naoya Kishimoto
紙に色鉛筆 210×297

天オアートミュージアムでは、作品のデザイン化活用などを通じて日常生活の様々などところで使われるようになることを目指しています。

今回の試みが新たなステップにつながればと考えています。

天オアートミュージアム ホームページ
<http://tensai-art.com/>
フェイスブック ページ
www.facebook.com/tensai.art



ボランティア 便り

私は、大学で臨床心理学を勉強しており、将来は福祉系の心理学的な支援や援助をしたいと考えています。大学の講義の中で、障害者心理を学んでおり、実際に障害を持つ方と関わりたい、また関わっている方々のお話が聞きたい、机の上では学べないことを実際に現場に立ち学びたいと思い、福祉に関するボランティアを探していました。

そんな時に、偶然、天才アートミュージアムのホームページを見つけ、すぐに応募し、面接をしていただきました。

《四条新道アトリエのボランティア募集中》

障害のある人のアートを推進するために、作品を創る環境をととのえ、完成した作品をアーカイブ＝記録・保存し、作家別にポートフォリオ＝「作品集」を編集制作して、作家・作品を社会の皆様へ広く紹介することを目指します。また、作品を例えば、Tシャツやバッグなどに商品デザイン化するアイデアを活かすのも楽しい活動です。

四条新道アトリエ；京都市東山区大和大路四条下る小松町 130

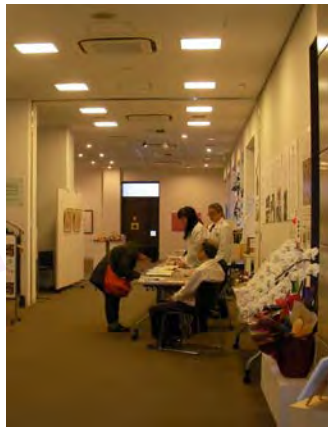
私たちは、多くのボランティアさんの力を必要としています。

皆様の積極的な参加をお待ちしています。

お問い合わせはホームページから
<http://tensai-art.com>



高田美貴
「おぼけ」
の衣装
(部分)



天才アートミュージアム展の受付で

私は、他の方に比べて芸術についての知識が乏しく、正直に申し上げますと、何が芸術的な作品といえるか、どの作品がより優れているのか、そもそも芸術とは何か、詳細には述べられません。しかし、そんな私がすぐに応募させていただいたのは、アーティストの方々の作品に、言葉では言い表すことのできないような感動を覚え、視覚を越え、彼らの作品が私の心の琴線に触れたからでした。

面接ののち、アトリエ内を見学させて頂きましたが、作品には、やはり言い表せないような、人を惹きつけるパワーを感じ、その作品を描くアーティストの方々は真剣な眼差しで、時には微笑みながら作品に取り組んでおり、とても輝いて見えました。その素晴らしい作品と、個性と魅力にあふれるアーティストの姿を、この季報を手にとられた方に、ぜひ一度見ていただきたいです。

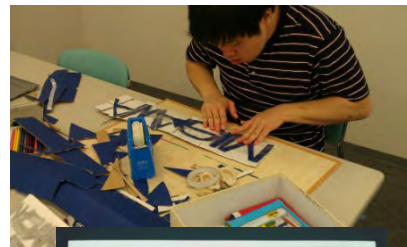
京都文教大学 日吉美希



季報掲載広告主募集中

季報天才アートは、「天才アートミュージアム」の活動報告をはじめ、所属作家の作品紹介、オール・ブリュットに関するコラムなどを掲載します。発行部数は三千部で、会員・協賛団体、関係行政機関、各地の美術館と、京都市内の主なギャラリー、カフェ、芸術系大学、総合大学などに配布・配架をしています。天才アートミュージアムの活動にご賛同くださる企業様のご協力を、ぜひともよろしくお願い致します。

お問い合わせはEメールにてお願いします。



アーティストと作品



大和大路に面した入口

- 年4回発行 毎号3千部予定
- 1枠 10,000円～年間4回掲載
- 最終ページ(後ろ表紙)にロゴを掲載

お問合せ・お申込みは info@tensai-art.com へ



画材・額縁
画箋堂
京都・河原町五条



株式会社 呉 竹

<http://www.kuretake.co.jp/>



吉村建設工業(株)

075-802-1360



各種印刷/アニメーション仕上げ
福祉工房 P&P



一級建築士事務所
町家・古民家再生/マンション改修
(株)共立ホーム
エンジニアリング
06 (6788) 5402 kap@hyper.ocn.ne.jp

《編集後記》

天才アートミュージアム展の間、たくさんのご来場者の方々と作品に共に向き合い、会話を交わしました。様々な工夫を凝らして展示された作品を前に、あらためて心温まり、この季報の紙面で天才アートミュージアム展のことを可能な限りお伝えしたいという思いをこめて当号を編集いたしました。これからも、より多くの方に作品を目にしていだけますようにと願っています。

画像処理 高橋さとと(ウエブデザイナー)／編集・構成 植村美樹(ボランティア)